



# 高校生SDGs意識調査

株式会社トゥリー  **TRÉE**  
Sustainability Consulting & Communication

※2021年度SDGs Questみらい甲子園参加者アンケート結果より(n=303)  
実施期間:2022年4月15日(金)~4月26日(火)

# 本調査のねらい

株式会社トウリーでは、SDGsを探究し、社会課題解決に向けたアイデアを創出する機会として、高校生を対象に「SDGs Questみらい甲子園」を共催企業、各地の実行委員会、アドバイザー等のご協力の元、2019年より開催してきました。これまで、394校、1,173チーム、総勢5,616人の方に参加いただき、社会課題の解決に熱心に取り組む高校生からSDGs達成に向けたアイデアが生まれました。

「高校生SDGs意識調査」では、SDGsへの興味関心が高く社会課題へのアクションを考えてきた高校生を対象にアンケートを実施しました。高校生のSDGsに対する率直な考えが判明しましたので、ここに報告します。

## SDGs Quest みらい甲子園 とは

### 開催趣旨とねらい

SDGs Quest みらい甲子園は、高校生が持続可能な地球の未来を考え行動するために、SDGsを探究し、社会課題解決に向けたアイデアを考える機会を創発し、そのアクションアイデアを発表・表彰する大会です。その上で、新学習指導要領に記載されている“持続可能な社会の担い手”を育てるために、SDGsを起点とした社会課題解決に向けた行動を促す機会を創発していくことが狙いです。

1. 高校生自身がチームを組み、主体的な学びと行動を創発していく
2. 学習指導要領に基づき2022年に本格的に導入される「総合的な探究の時間」の授業を見据え、SDGsを通じて生徒たちが社会課題を探究する学習環境を整備していく
3. ここで発表されるアイデアを多様なセクターが応援できるパートナーシップで推進し、世代間のつながりを作り上げ、実践的行動を促す

# 2021年度SDGs Questみらい甲子園の成果

## 全エントリー数

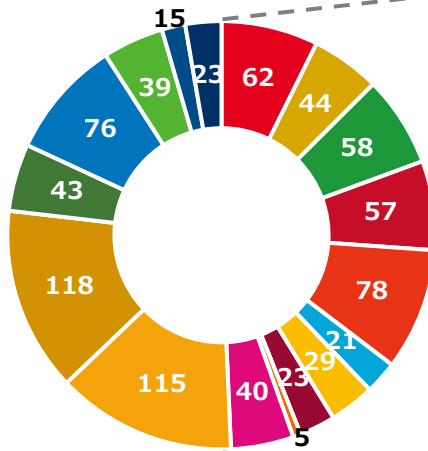
**220校 846チーム 総数3,358人**

## 地域別エントリー数

	北海道			首都圏			静岡			東海			関西			九州北部		
	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数	校数	チーム	人数
2019	22	70	244	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	144	570	-	-	-
2020	18	42	171	26	94	346	-	-	-	39	114	447	30	123	480	-	-	-
2021	29	71	252	61	196	736	26	114	467	29	87	326	56	268	1145	19	110	432

※首都圏2020年は  
「神奈川県」大会

## ゴール別のエントリー総計



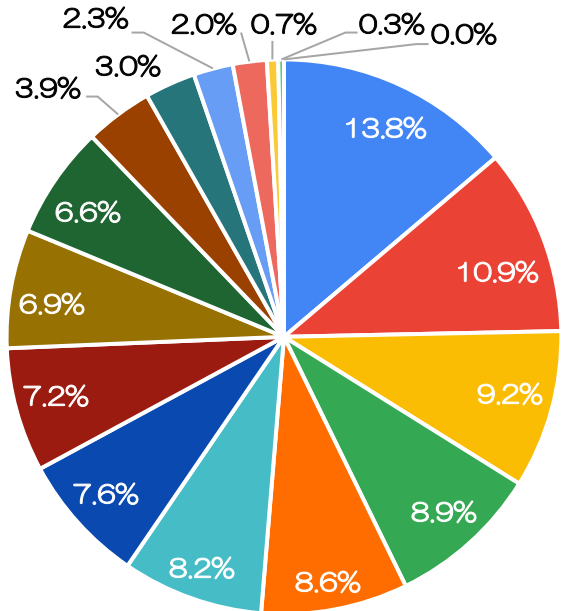
1. 【12.つくる責任 つかう責任】

2. 【11.住み続けられるまちづくりを】

3. 【5.ジェンダー平等を実現しよう】



# 1. SDGsの重要目標



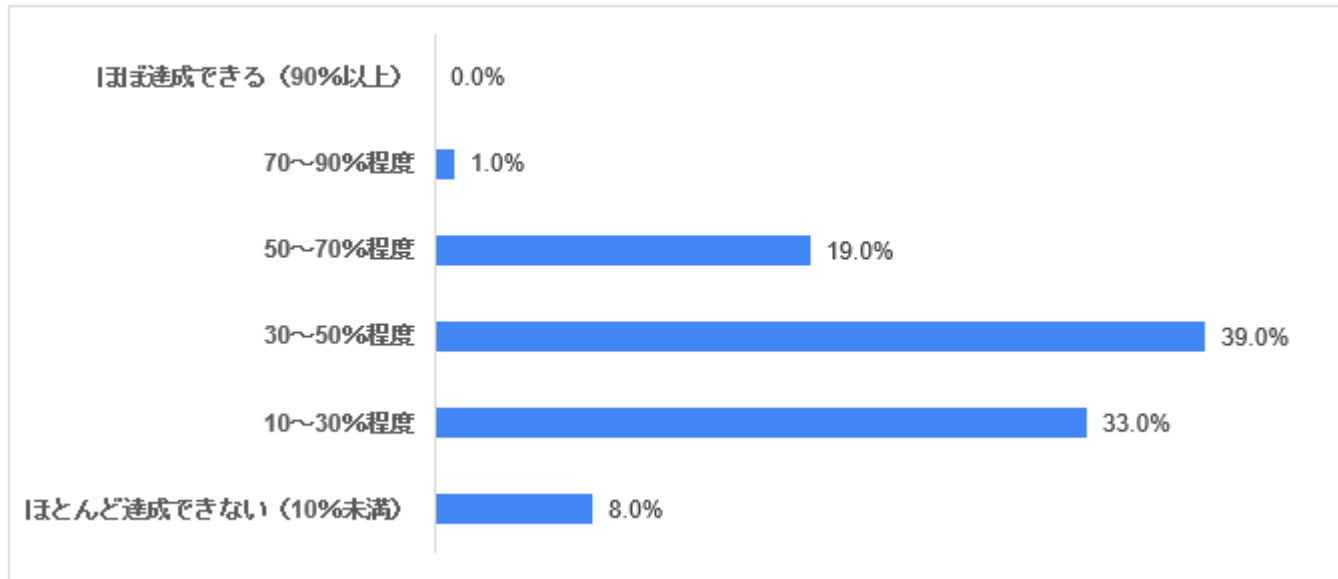
- 16. 平和と公正をすべての人に
- 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 4. 質の高い教育をみんなに
- 2. 飢餓をゼロに
- 12. つくる責任 つかう責任
- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 1. 貧困をなくそう
- 10. 人や国の不平等をなくそう
- 3. すべての人に健康と福祉を
- 6. 安全な水とトイレを世界中に
- 17. パートナーシップで目標を達成しよう
- 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 8. 働きがいも経済成長も
- 15. 陸の豊かさを守ろう
- 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

高校生が最も重要と考えているSDGsの上位5つは下記のとおりとなりました。

- 1位 平和と公正をすべての人に(13.8%)
- 2位 ジェンダー平等を実現しよう(10.9%)
- 3位 質の高い教育をみんなに(9.2%)
- 4位 飢餓をゼロに(8.9%)
- 5位 つくる責任 つかう責任(8.6%)

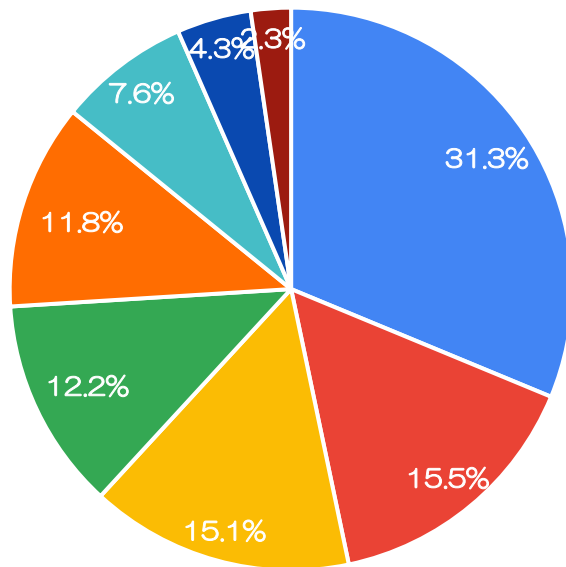
なお、開催エリア別にみると上記の5つ以外に、まちづくり(北海道)、不平等や自然保全(首都圏)、飢餓(東海)が上位にあがりました。

## 2. 期待されるSDGsの達成度



ほとんど達成ができない(7.6%)を含む、8割の高校生がSDGsの達成は50%以下ととらえており、多くは悲観的な思考を持っていることが明らかになった。

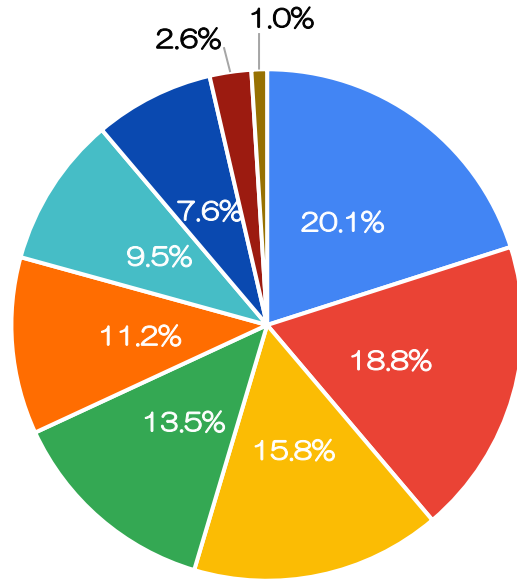
### 3. SDGs達成に向けた学校への要望



- 地域や企業との連携によるSDGsに関連したプロジェクトの推進
- 生徒のSDGsに関する校内外での活動の積極的なサポート
- (みらい甲子園等) 外部のコンテストなどへの積極的な参加
- SDGsにかかる学習時間の拡大
- 学校経営に関連するSDGsゴール達成に向けたアクションの強化
- 教員らのSDGsに関する知識やノウハウ・ネットワークの強化
- SDGsの学習に関する教材や書籍の提供
- その他

高校生は、SDGsの達成のために学校と地域・企業との連携(31.3%)を求めることが判明した。合わせて、生徒のSDGsに関する校内外での活動の積極的なサポート(15.5%)や(みらい甲子園等)外部のコンテストなどへの積極的な参加(15.1%)を多くの方が要望していることも示唆された。

## 4. SDGs達成に向けた企業への要望

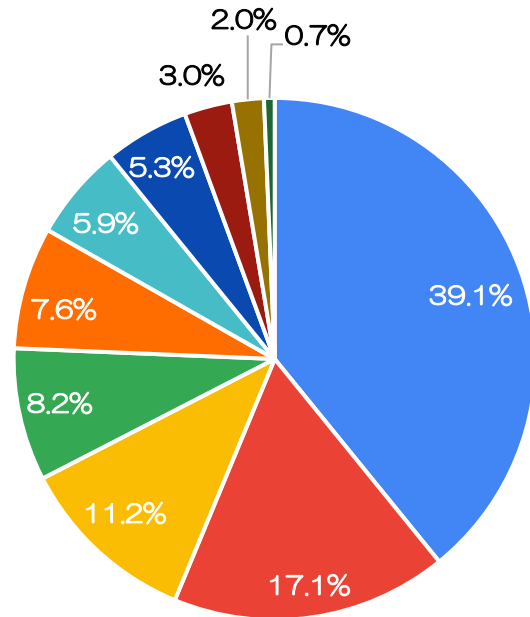


- 性別や人種、障がいの有無などに囚われず多様な人材が活躍できる環境の提供
- 再エネ活用や資源循環などによる脱炭素社会に向けた取り組み
- エシカルな製品やサステナブルなサービスの開発および提供
- 若者の積極的な正規雇用と働きがいのある就労環境の構築
- 地域社会の一員としての地域課題解決への貢献
- 自然環境保全に関する取組や関連する活動への支援
- 寄附や技術提供その他による開発途上国の支援
- その他事業領域でのSDGs目標達成の活動（※なくてもいいかも）
- その他

高校生は企業に対して、多様な人材が活躍できる環境の提供（20.1%）、脱炭素社会に向けた取り組み（18.8%）、エシカル製品やサービスの開発と提供（15.8%）を期待していることが判明した。

なお、開催エリア別にみると、上記以外に自然環境保全に関する取り組みへの支援（首都圏）、働きがいのある就労環境の構築（静岡県）、開発途上国の支援（北九州）が多くみられました。

## 5. SDGs探究学習の成果



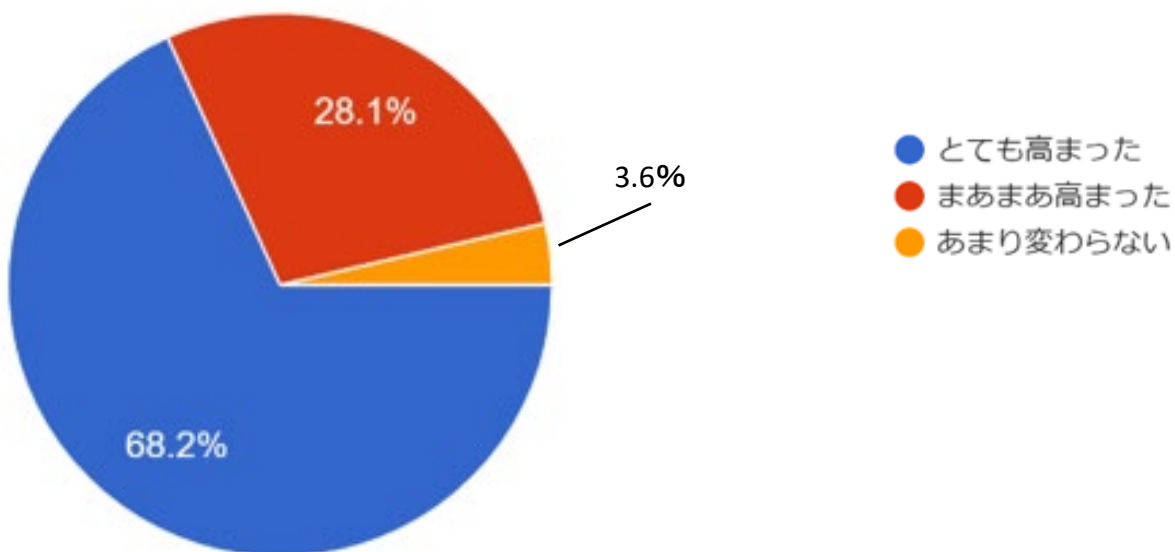
- SDGsについて深く考えるきっかけとなった
- 仲間と一緒にチームで企画をつくる経験ができた
- 地域の課題に目を向けるきっかけとなった
- 世界で起きている課題に目を向けるきっかけとなった
- 普段から学校で取り組んでいることを、より一層加速するいい機会となった
- 普段から考えていることをまとめ、発信するいい機会となった
- 自分の行動を見直すきっかけとなった
- 大学入試に向けたポートフォリオに活用できる参加証明書を得られた
- 特に変化はなかった
- その他

SDGs Questみらい甲子園に参加した高校生は、主にSDGsの理解深化（39.1%）、チームで企画を進める体験（17.1%）、地域課題の発見（11.2%）という気づきを得たことが判明した。



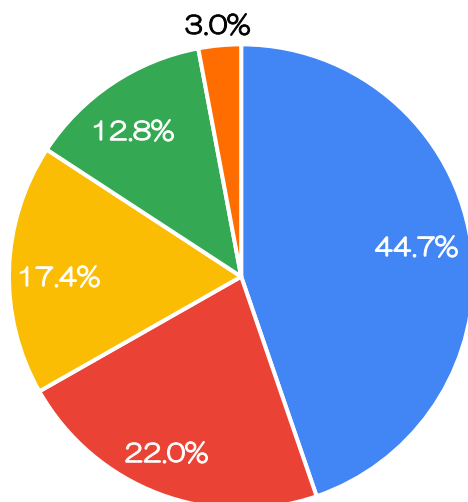
## 6. SDGsへの行動意識

---



SDGs Questみらい甲子園に参加することによって、97%の生徒がSDGsの関心や行動に対する意識が高まったと回答された。

## 7. 探究テーマの選択理由



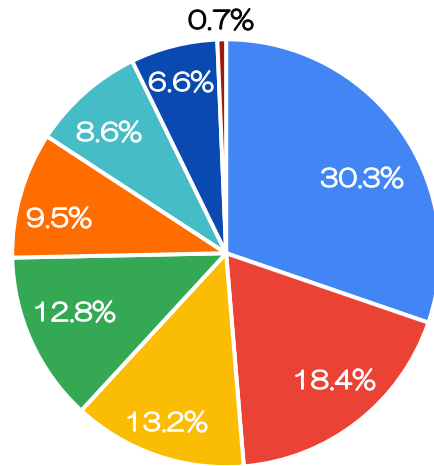
- 日々の生活の中で、興味・関心を強く持っていたテーマだったから
- 学校や部活動で継続的に取り組んでいるテーマだったから
- 大会参加を決めSDGsについて調べる中で、特に課題が大きいと感じたから
- アイデアの原型が頭にあり、そのアイデアを活かして社会課題に貢献できそうだったから
- その他

### ※上位10テーマ(2021年度)

LGBTQ、食品ロス、海洋汚染、地域活性化、  
貧困、リサイクル、健康、プラスチック、  
ゴミ・廃棄物、エネルギー

約過半数の生徒が「日々の生活の中で、興味・関心を持ったテーマ」を選んだ。その中でLGBTQ、食品ロス、海洋汚染に関するテーマが選択された。また、学校での活動時に取り上げていたテーマ(22.0%)、みらい甲子園への参加がきっかけに課題を考えた(17.4%)が上位を占めた。

## 8. アクションのための必要事項

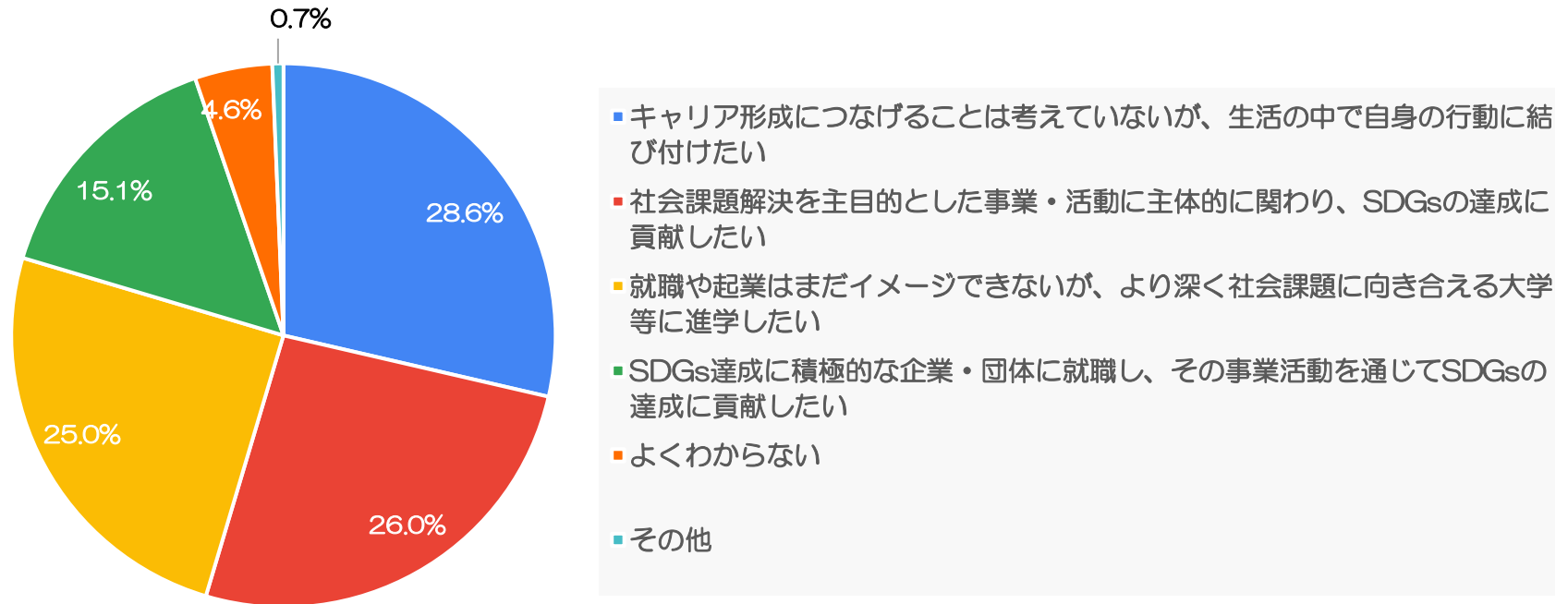


- テーマに関連する地域の活動者（個人・企業・団体等）とのつながりが必要
- テーマに共感し、一緒に活動してくれる仲間が必要
- 専門的知見から指導・アドバイスをしてくれる学校外の伴走者が必要
- 専門的スキル（デザインやアプリ開発等）を持った人の協力や依頼のための資金が必要
- 指導・アドバイスをしてくれる学校内の伴走者が必要
- SDGsについてより深く学び、考える機会（情報や勉強会など）が必要
- 活動は違えども、情報を交換し、切磋琢磨し、励ましあえる同世代の仲間が必要
- その他

高校生が課題解決のアクションをするにあたって、テーマに関連する地域の実践者とのつながり(30.3%)、一緒に活動する仲間(18.4%)、学校外の指導者やアドバイザー(13.2%)を多くの生徒が必要としていることが示唆された。

また、開催エリア別にみると、上記以外に専門スキルを持った人と資金(首都圏、静岡県)、SDGsをより学ぶ機会(東海)という回答もみられた。

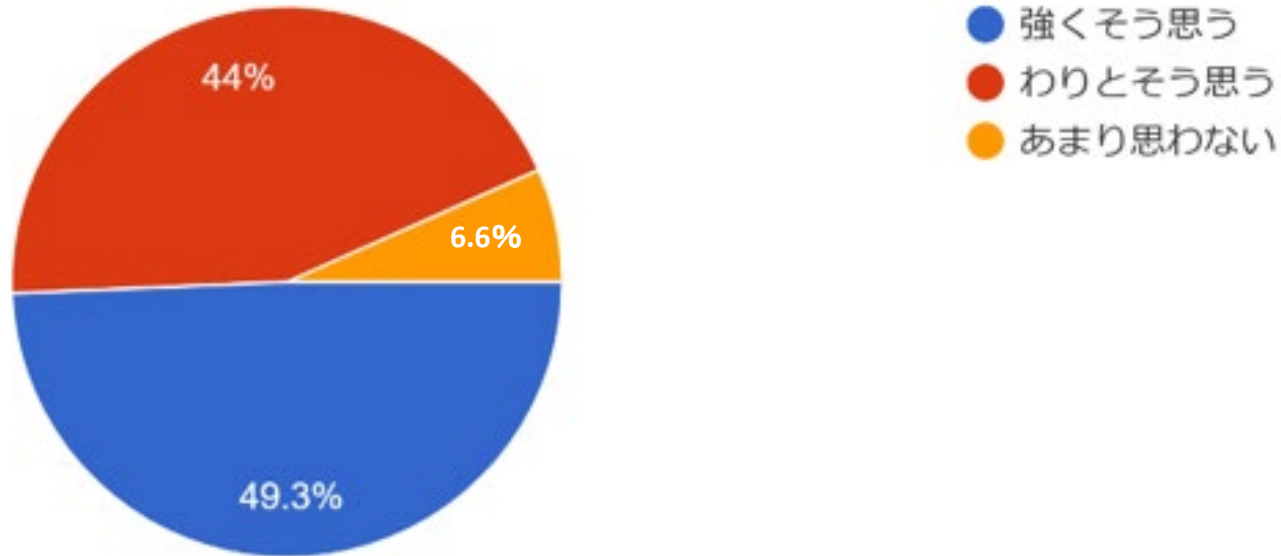
## 9. 今後のキャリア形成について



約29%の就職等のイメージはまだ持っていないが、普段の生活の中で自身の行動に結び付けたいと回答した。また、社会課題解決を主目的とした事業・活動に主体的に関わり、SDGsの達成に貢献したい(26.0%)、就職や起業はまだイメージできないが、より深く社会課題に向き合える大学等に進学したい(25.0%)という考えをもつ生徒が半数以上見られた。

## 10. 高校生同士のつながりについて

---



約94%の生徒が、SDGsに関心がある他の高校生とのつながりを持ちたいという意見が聞かれた。